

# 公募等実施事項報告書（資金分配団体）

**事業名:** 社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業  
**資金分配団体:** 公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン  
**実行団体数:** 17団体  
**実施時期:** 2020年7月～2021年3月  
**事業対象地域:** 全国  
**事業対象者:** 社会的脆弱性の高い子ども

Version 1.0

日付: 2020年10月20日

## I. 公募～選定の結果

単位: 件

選定予定件数-計画	申請事業数-実数	申請団体数-実数	選定事業数-実数	選定団体数-実数
50	57	57	17	17

## II. 公募プロセス/実行団体の募集

募集の告知期間 ※告知開始～募集受付開始 (単位: 日)	募集の受付期間 (単位: 日)	募集の告知媒体の種類							
17	18	<input checked="" type="checkbox"/>	HP	<input checked="" type="checkbox"/>	SNS	<input type="checkbox"/>	チラシ	<input checked="" type="checkbox"/>	関連組織を通じた広報
		<input checked="" type="checkbox"/>	プレスリリース	<input type="checkbox"/>	その他	具体的な方法 ( )			
<b>実行団体の募集で工夫したこと、よかったこと</b> ・子どもの支援を行う団体をインターネットで検索し、ダイレクトメッセージを送った。 ・ウェブ説明会を2回開催し、必要な書類は適宜共有した。 ・当団体が実施した東日本大震災復興支援事業での助成先を含め、子ども支援、とくに子どもの権利実現に賛同をする団体に広く呼び掛けた。									
<b>実行団体の募集の課題</b> ・公募開始直前になって、「資金提供契約締結承認機関決定日確認書」が必要と判明し、急遽定款第41条に基づく理事会を開催しなければならなくなり、公募開始が8月にずれ込んだ。 ・公募開始時及び第一回のウェブ説明会時に、申請に必要な書類（特に『積算の手引き』）がすべてそろっておらず、説明会で実行団体への応募を考えている団体からの質問にしばしば答えられなかった。									
<b>公募に申請した団体の情報を、募集終了時に Web サイト上で公表しましたか。対応状況の詳細と合わせて記載ください。</b> はい <a href="https://www.savechildren.or.jp/lp/kvumin2020/">https://www.savechildren.or.jp/lp/kvumin2020/</a>									

## III. 公募プロセス/申請団体の審査

単位: 人

審査委員の人数 (合計)	内訳:外部委員	内訳:内部委員
4	3	1
<b>審査の過程で第三者の意見聴取等、専門的な意見をどのように取り入れましたか。</b> ・審査員はそれぞれ、子どもの権利、貧困、教育、外国にルーツをもつ子ども等に対する支援の専門家である。 ・審査の前に事業計画書等の申請書類を共有し、事前に「事業の妥当性、実行可能性、継続性、先駆性、波及効果、連携と対話、子どものセーフガーディング」の項目で点数付けとコメントを寄せていただいた。 ・審査会では、各申請団体に対し、それぞれ審査員の意見を伺い進めたが、特に事業対象者や対象地域が限定された事業内容に関しては、その事業及びその地域に対して専門性や知見を持つ審査員の意見を尊重した。		
<b>審査を行う者の利益相反の防止措置はどのように行いましたか。</b> ・事前の資料送付時に、（自身または家族が理事を務めているなどの）利益相反がある場合は申し出てもらうようアナウンスした。（実際にはなかった。）		
<b>申請団体のコンプライアンス/ガバナンス体制の確認をどのように行いましたか。</b> ・定款・会則等組織の運営方法規定した文書の提出を求め、定款等の提出がない団体は書類審査で不採択とした。		
<b>申請団体との面談(必要に応じて現地調査)はどのように実施しましたか。</b> ・緊急助成ということで、ウェブ面談は行わず、必要な連絡は電話及びメールにて行った。 ・適宜、申請団体の公式サイトや関連ニュースなどを確認して団体の情報収集を行った。		
<b>申請団体の審査で工夫したこと、よかったこと</b> ・申請から説明会、審査会まですべてのプロセスをウェブ上で行ったことで、地域に偏りなく申請団体が集まり、遠方の審査員にも協力をお願いできた。 ・申請団体の評価を点数化して可視化することで、客観的かつ効率的な審査ができた。		
<b>申請団体の審査で感じた課題</b> 特になし。		

IV. 公募の設計/申請団体数・実行団体の事業内容

(申請団体数) 実行団体選定予定件数に対して申請団体数は想定通りでしたか。その要因と合わせてご記入ください。	
想定より多かった	資金分配団体の中で、いち早く公募を開始したこと。 助成額の幅が広がったこと。
(申請団体の事業内容) 設定した社会課題の解決に対して、選定した実行団体の事業内容(目標、対象者、地域、活動、金額、規模等)は想定通りでしたか。その要因と合わせてご記入ください。	
想定通りだった	公募説明会にて、「社会的脆弱性の高い子ども支援強化事業」である旨を強調したこと。また、具体的な活動例なども分かりやすく説明した。

V. 選定結果の通知及び公開の状況

(選定結果の通知) 実行団体に選定しなかった申請団体に対し、その理由と改善すべき点を示しましたか。	
はい	結果通知書に、不採択理由を記載した。
(選定結果の公開) 選定結果について、webサイト上で広く一般に公開しましたか。	
はい	<a href="https://www.savechildren.or.jp/lp/kyumin2020/">https://www.savechildren.or.jp/lp/kyumin2020/</a>
(規定類の公開) ガバナンス・コンプライアンス体制に関する規程類を、webサイト上で広く一般に公開しましたか。	
いいえ	緊急助成ということで、契約手続きを優先している。
(人件費水準の公開) 経費に人件費が含まれる場合、当該人件費の水準をwebサイト上で広く一般に公開しましたか。	
いいえ	緊急助成ということで、契約手続きを優先している。

VI. 公募の過程に伴う事業再検討結果(事前評価)

課題の分析(ニーズの分析)

課題の妥当性: 助成申請時に想定していた課題の分析に対し、変更が発生した部分
変化なし
事業対象の妥当性: 助成申請時に想定していた課題の分析に対し、変更が発生した部分
変化なし

事業設計の分析(セオリーの分析)

事業設定の妥当性: 助成申請時に想定していた事業設定に対し、変更が発生した部分
変化なし

見直し後の事業目標 及び アウトプット指標(実施・到達状況の目安とする指標)/把握方法/目標値/達成時期

今回の事業実行を通じた目標	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態

見直し後の事業実施後(1年後)以降に目標とする状態 及び その目安とする指標(※指標については設定可能であれば、で構いません)

今回の事業実行を通じた目標	目標値/目標状態

Ⅶ. 広報実績（公募関連以外）

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	無	
広報制作物等	無	
報告書等	無	

Ⅷ. ガバナンス・コンプライアンスの確認

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	
3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
5. コンプライアンス委員会は定期的開催されていますか。	はい	
6. 実行団体に規程類の整備について説明をしましたか。	はい	